

広島県教育支援センター（SCHOOL “S”）の活動状況について

1 趣旨

県内の国公立学校の子童生徒を対象として、対面とオンラインの両面から社会とつながる場を提供するため、令和4年4月1日にSCHOOL “S”を開設し、個々の状況に応じた学びを支援することを通して、社会的な自立に向けて必要な力を育てる取組を進める。

2 活動状況

- (1) 問い合わせ件数 109件 ※令和4年6月14日現在
- (2) 利用登録者数 53人（小学生28人 中学生25人） ※令和4年6月14日現在
- (3) 1日の平均利用者数（令和4年6月1日～14日） ※小数第2位以下四捨五入

利用方法	小学生	中学生	計
来室利用	7.3人	1.9人	9.1人
オンライン利用	1.8人	2.8人	4.5人
計	9.0人	4.6人	13.6人

(4) 利用している子童の感想等（一部抜粋）

- ・ 自己紹介で自分の名前を話せたのがうれしかったし、カードゲームでみんなと関わったのがうれしかった。今度は、絵をかいたり、料理をしたりしたいです。
- ・ 図工で素敵な絵をかいた。最高!!!!!!!!!!!!!!
- ・ 自分たちで竹を切って、箸置きとかを作って楽しかった。
- ・ （オンラインコンテンツで）室町時代や琉球のことについて学びました。日本と明や東南アジアとの経由地で利益を上げていたことを知りました。



(5) 参考（広島県教育委員会HP（SCHOOL “S”））

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/school-s.html>

不登校等児童生徒への学習支援について ～心のふれあい相談室の機能を強化～

趣旨 不登校や不登校傾向の児童生徒，とりわけ，学校等と十分につながりがもてていない児童生徒に対し，対面とオンラインの両面による社会とつながる場を提供し，個々の状況に応じた学びを進めることを通して，社会的な自立に向けた支援を行う。

心のふれあい相談室（県立教育センター内）

◆相談業務（不登校等・いじめ）
電話相談・来室相談
相談指導員・心理療法士

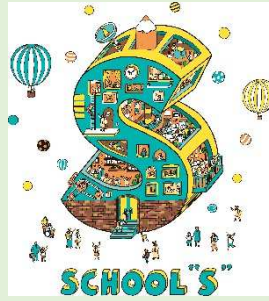
◆教育支援業務（県の教育支援センター）

愛称：SCHOOL“S”
(スクールエス)



名誉校長
中邑賢龍 教授

東京大学先端科学技術研究センター



イラストロゴ

児童生徒 (Students) が
自分で選んだ (Select)
秘密基地 (Secret) のようにワクワクする
特別な (Special) 場所 (Space)

個別の学習支援にかかる相談

↓
個別サポート計画の作成

↓
個々の児童生徒に応じた時間割 (MY 時間割) を作成

毎日 (月曜日～金曜日) 開設

※ 月曜日はオンラインコンテンツの利用のみ

MY 時間割で活用する学習方法の例

来室による利用 (多目的ルーム・学習ルーム等にて)	オンラインによる利用 (自宅，市町教育支援センター等から)
<ul style="list-style-type: none"> 教科書や問題集による各教科等の学習 ソーシャルスキルトレーニング 体験的な活動 (農作業・調理実習・スポーツなど) 探究的な活動 など <p>※ 来室時にオンラインを利用することも可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習アプリの活用 指導主事等によるプログラム配信 大学等専門機関やNPO法人等のコンテンツの活用 など <p>※ 週に何回か，来室による利用も可能</p>

参加

「東大LEARN in 広島」や「オンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動」

学習状況等の共有

オンラインによる利用

オンラインによる利用

通室による利用

アウトリーチ
※特に必要な場合

オンラインによる利用

連携

大学等専門機関
NPO法人等

SSR

スペシャルサポートルーム

学校

通常の
教室

通学

選択

各市町
教育支援センター
(校外適応指導教室)



民間団体
(フリースクール等)

通室

通室



SCHOOL“S” 外観図